令和６年11月９日

中野オレンジバルーンフェスタ2024
in 帝京平成大学 中野キャンパス

中野区医師会　副会長　宇野 真二

令和6年11月9日、10日の2日間、帝京平成大学中野キャンパスにおいて「中野オレンジバルーンフェスタ2024」が開催された。今年は、「地域医療を未来へ！医療介護のプロと学生が共に考えるイベント」をテーマとし、帝京平成大学の学生が、地域医療の現場を体験した内容を発表する「中野医療介護体験インターンシップ発表会」、中野医療介護について学生さんたちと考える、対話式のシンポジウムの2部構成で開催された。また今年から、中野区薬剤師会と帝京平成大学薬学部が共催して行われる区民講座、お薬相談会も同時開催された。区民、学生、医療・介護の関係者、区関係者も参加され、活発な意見交換がなされ、意義のあるイベントとなった。これからも、地域の医療連携に加え、産学連携の継続が中野区の地域医療の発展に重要な役割を果たすことが期待される。

以下に、本イベント内容の骨子を示す。

中野医療介護体験インターンシップ発表会

帝京平成大学の学生を対象に、中野地域の医療介護を体験してもらうために、医師会、歯科医師会、薬剤師会、訪問看護、ケアマネージャー、帝京平成大学の教員が協力し、インターンシップ（職業体験）を実施した。学生がインターンシップとして、診療所、歯科診療所、薬局、老人施設、訪問看護ステーション等を訪れ、それぞれ障害のある方の歯科治療について、歯科診療の見学、老人ホームの訪問診療への同行、訪問診療への同行、薬局の見学、訪問看護同行の体験をポスター発表し、学生、医療・介護者間において活発な議論がなされた。

中野医療介護Web対話型シンポジウム
「君ならどうする！？正解なき選択」
地域の医療介護における倫理的ジレンマと意思決定

地域の医療や介護の現場では、患者さんやご家族の価値観、文化、そして社会的背景が、どのような治療やケアを選ぶかに大きく影響する。このセッションでは、実際の事例に基づいて医療者と会場の学生がネットを用いながら議論した。明確な正解がない状況で、どのように最良の判断を下すのか、みやびハート&ケアクリニックの渡邉雅貴君の司会のもと、学生、医療者がともに考えた。

症例提示１　地域医療の現場で遭遇する倫理的ジレンマについて
松井薫氏（中野区医師会訪問看護ステーション、看護師）

症例提示２　高齢者ケアにおける意思決定プロセスの複雑さ
渥美頼子氏（鷺宮地域包括支援センター、ケアマネージャー）

パネリスト：宇野真二君（中野区医師会）、小林香先生（東京都中野区歯科医師会）、遠山伊吹先生（中野区薬剤師会）、森川洋先生（帝京平成大学）

参加した学生は、上記2症例を通じて、地域医療と介護の現場で直面する倫理的ジレンマや意思決定の複雑さを学び、医療や介護の現場における価値観や文化的な多様性を理解することにより、医療者としての判断力を養うべくリアルな体験を経験できた。

最後に、宇野真二 中野区医師会副会長、帝京平成大学薬学部長 亀井美和子先生、訪問看護ステーション 関根玲子看護師より総括がなされ、会は終了した。